

「アジアの不思議：ローカル版 2005」共通カリキュラム

1. 紹介ビデオの作成

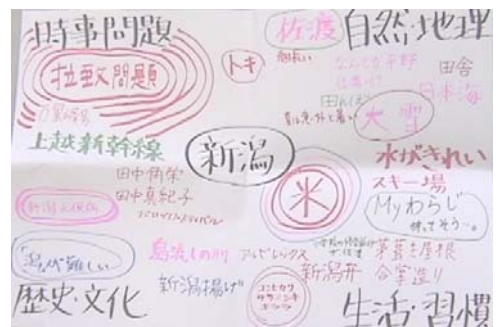
【目的】カメラをまわしてみる。パートナーにメンバーの紹介をする。

- (1) 制作グループを決める。(人数・グループ数は自由)
- (2) グループごとに紹介ビデオを作成する。
 - * 一人一人の顔が見えること。
 - * 学校の雰囲気がかかること。
 - * 長さは、1人15秒×人数分程度。
 - * 編集はなし。
 - * 内容、スタイルは自由。
- (3) 紹介ビデオを交換する。
 - * ミニDVテープにダビングして相手校に送付。
 - * 各グループで決めた日までに、イメージマップと一緒に郵送。
 - * オリジナルはミニDVテープで保存しておくこと。

2. イメージマップの作成

【目的】異なる地域の学生が自分たちの地域・文化に対してどのようなイメージを持っているのかを知り、それに基づき自分たちの本当の地域・文化を知ってもらうための映像クイズのテーマを考える。

- (1) イメージマップを作成する。
 - * その地域に対して持っているイメージを言葉にしてマッピングする。
 - * パートナーの地域と自分たちの地域について作成する。
 - * 地域名(中心)・時事問題(左上)・歴史伝統(左下)・自然地理(右上)・生活文化(右下)と軸を取る。(写真参照。ただし、写真のカテゴリーとは異なるので注意。)
 - * 色分けについて
赤：マスメディア、ピンク：教科書、オレンジ：旅行ガイドやインターネット、緑：口コミ、うわさ、青：実体験
 - * 囲いについて
同じイメージを持っている場合、上記の色分けに即してその言葉を囲む。
- (2) イメージマップを交換する。
 - * オリジナルをパートナーに送付し、デジタルカメラで撮影したものを手元に保存しておくこと。
 - * 各グループで決めた日までに、紹介ビデオと一緒に郵送。
 - * ローカル新聞を同封し、テレビ欄やトップニュースを比較したりしても面白い。(可能であれば。)



例：新潟に対するイメージマップ

3. クイズ制作（映像／写真）

【目的】メディアが創り出すイメージではなく、自分たちの視点から、自分たちの地域文化を表現する。実際の映像制作を通じて、メディアで表現することの難しさを体験的に学習する。

(1) テーマを決める。

- * 送られてきたイメージマップを参考にしながら、グループごとのテーマを決める。
- * イメージマップのカテゴリー（時事問題・歴史伝統・自然地理・生活文化）ごとにテーマを決めるのもよい。

(2) クイズ映像を作る。

- * 映像はクイズ編と解答編に分けて、トータルで2分以内。（クイズ編と解答編の割合は自由。）

(3) 交流の方法に従って、パートナーと映像を交換／ウェブにアップ。（チームごとに相談。）

- * オリジナルはミニDVテープで保存しておくこと。

4. 交流

【目的】送り手の立場からは受け手の反応をみることで、受け手の立場からは送り手の背景や意図を知ること、映像というメディアを介したコミュニケーションの難しさや限界を体験的に学習する。

(1) パートナーの制作したクイズ映像を見て、その解答を考える。

(2) それぞれの制作した映像について、その背景、意図などについて話し合う。

* 交流方法

- ・ Aチーム：対面交流
- ・ Bチーム：オンライン交流
- ・ その他のチーム：未定

5. 反省会

【目的】イメージマップ、映像制作、交流を通じて得た学生の学びを意識化させる。

(1) 各学校のゼミ、授業で個別に行う。（やり方は自由。）

- * 先生は学生の交流の様子を観察し、ゼミ・授業のテーマに応じて、学生が交流を通して得た気づき・学びを意識化するように導く。
- * 気づき・学びは、「異文化理解」とか「メディア・リテラシー」でなくても、各先生が設定する授業のテーマでよい。

6. スタッフ総括（交流会）

【目的】反省と課題をまとめ、今後の展開について話し合う。

- (1) それぞれの大学で、どのようなことが起こったか、どういう気づき・学びがあったか、問題点はなんだったかなどを報告しあう。
- (2) 具体的な問題についての解決策と、次の年の活動について考える。